

場所		命を助ける / 備えの段階 / E-1-2「資機材等の整備」 E-1-3「救命講習・訓練の実施」
日時		

	主体						
	自助(県民・事業所など)		共助(自主防災組織・ボランティアなど)		公助(県・関係団体など)		
	誰が	どのようにするか	誰が	どのようにするか	誰が	どのようにするか	
時間軸	備えの段階	県民	<ul style="list-style-type: none"> ●最低限の救急キットの準備(E-2-1) ●バール・ジャッキ・リアカーなど倒壊家屋から救助するための道具の準備(E-2-1) ●やけどの応急手当訓練(C-2-1) ●防災訓練や応急処置訓練への参加(E-2-1) ●救命救急講習の受講(倒壊家屋の進入口の調査や救出も)(E-2-1) ○ペットをどうするか、の心構え、ルールを知っておく 	地域・自主防災組織等	<ul style="list-style-type: none"> ●防災倉庫内へ、発電機、チェーンソーなど救助に使える器具を整備し、ボランティアが使えるようにする(E-2-1) ●救出に必要なバール等物品の備えの徹底(E-2-1) ●医薬品等を備蓄しておく(E-2-1) ○救助・救出等のための資機材等の整備 ●応急処置訓練の実施(救出救助・応急手当・救命手当などの各訓練。住民とともに)(E-2-1) ●救急救命講習への参加(救助・救命・応急手当のため予め最低限の知識・技術を習得しておく)(E-2-1) ○防災訓練時に必ず応急救護訓練を住民が直接経験する形で実施する ○組織の保有ではない、地域で活用できる資機材等の把握と利用の取り決め(事業所等が保有するもの) 	県・市町村	<ul style="list-style-type: none"> ●救助ボート等の整備(D-2-1) ○応急対策に必要な資機材等の備蓄
		事業者	<ul style="list-style-type: none"> ○救助・救出等のための資機材等の整備 ○資機材、医薬品の整備、保管、維持、管理及びそのシステムの確立 ○建設機材・フォークリフト等保有事業所の活用法の検討 	各救護団体	<ul style="list-style-type: none"> ●救護訓練(フィールド救護、病院救護、薬剤チェック、衛生材料チェック、連携プレーチェック)、医療情報の伝達訓練、医療施設の状況訓練(E-3-3) 	日赤	<ul style="list-style-type: none"> ●地震災害から命を守る講演会開催(被災地の状況写真等投影)、救助訓練指導、応急手当訓練指導、救命手当訓練指導(A-2-1)
		県民	○消火器等の設置・整備(C-1-1)			市町村、県等 防災関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ●救急救命講習の実施(E-2-1) ○実践的な防災訓練・初動体制確立のための訓練・現場訓練・図上訓練の実施
				自主防災組織、事業所	○資機材、医薬品の整備、保管、維持、管理及びそのシステムの確立	指定医療機関	●災害医療訓練(E-3-3)
	地震発生時						
	応急・復旧段階						
	復興段階						